

**TAKE FREE**

ご自由にお持ちください

どんな時代でも  
新しい。



世界のベストセラー  
作家たちがいま、  
シェイクスピアの名作を語りなおす！

語りなおし  
シェイクスピア

シリーズ刊行記念ハンドブック

[スペシャルインタビュー]  
マーガレット・アトウッド  
聞き手・翻訳／鴻巣友季子

[寄稿] 北村紗衣

[コラム] 今さらですが——  
シェイクスピアってどんなお方？

第一弾

M・アトウッド  
×『テンペスト』

9月4日(金)発売

集英社の文芸単行本

マーガレット・  
アトウッド

Margaret Atwood

『テンペスト』

The Tempest

エドワード・  
セント・オービン

Edward St. Aubyn

『リア王』

King Lear

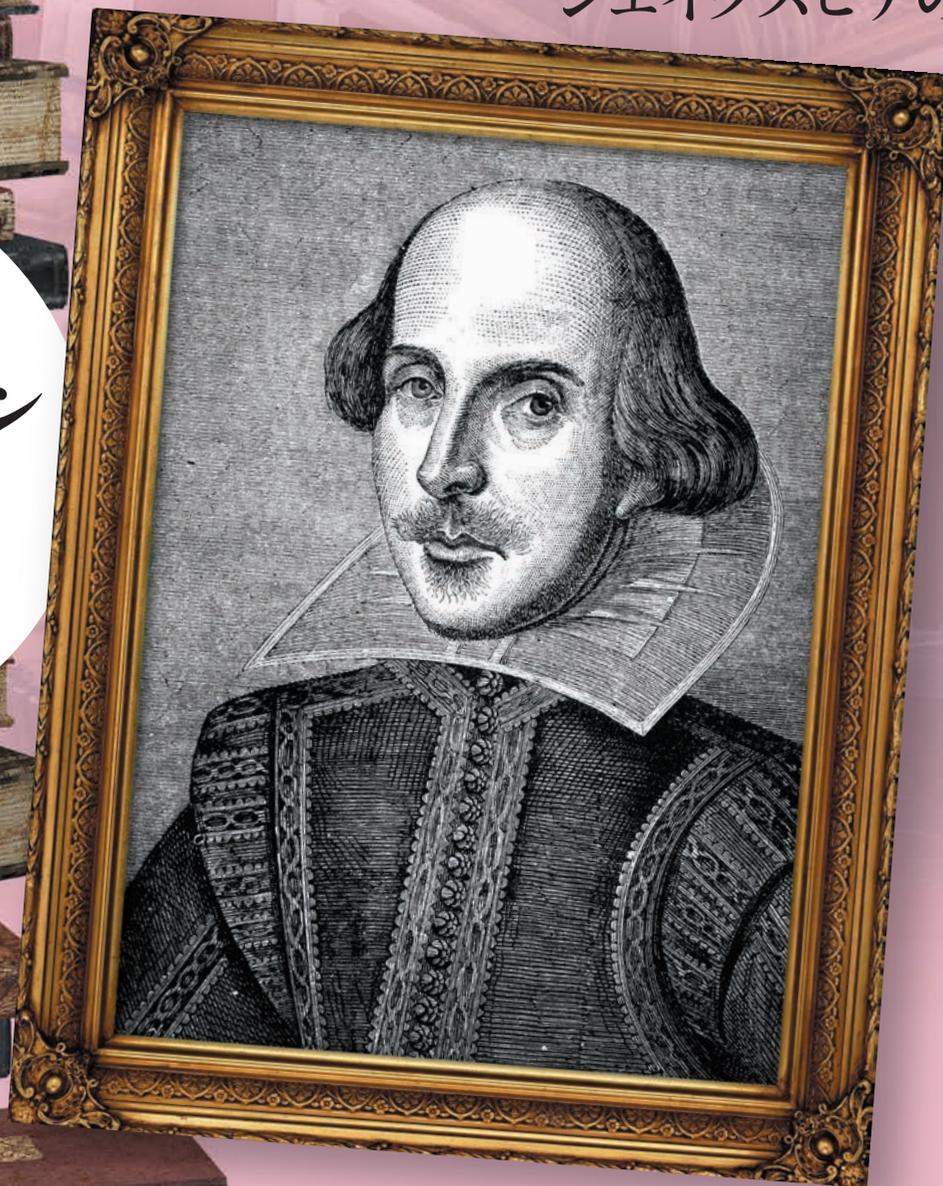
アン・タイラー

Anne Tyler

『じゃじゃ馬  
ならし』

The Taming of the Shrew

400年の時を超えて愛され続ける  
シェイクスピアの名作が現代版に!



16世紀末から17世紀初頭に活躍した、天才劇作家にして、世界文学の巨星であるシェイクスピア。四大悲劇『ハムレット』『マクベス』『オセロー』『リア王』をはじめ、『じゃじゃ馬ならし』『夏の夜の夢』『テンペスト』といった傑作40作を生み出しました。その巧みな構成と台詞回し、人間の本质に迫るストーリーは時が経っても色褪せることなく、今でも世界中で上演されています。そんなシェイクスピアの名作を、世界のベストセラー作家たちが現代を舞台にリトールドしたのが、この「語りなおしシェイクスピア」シリーズです。これまでにないほど、わかりやすく、面白く、そしてシェイクスピア作品のもつ普遍性に驚くはずです。

天才シェイクスピア×  
現代文学の巨匠——  
奇跡のシリーズが誕生!

シェイクスピア×アトウッド×鴻巣友季子  
⇒最高に楽しい、チャーミングな怪物が誕生!

語りなおしシェイクスピア1 テンペスト

# 獄中シェイクスピア劇団

マーガレット・アトウッド  
鴻巣友季子 訳

●本体2,700円+税



HAG-SEED

復讐と赦し、再生を描く、  
シェイクスピア最後の傑作  
『テンペスト』を、M・アトウッドが  
現代の刑務所を舞台に  
マジカルに語りなおす!

舞台『テンペスト』の演出に心血を注いでいた芸術監督フェリックスは、ある日突然、部下トニーの裏切りにより職を奪われた。失意のどん底で復讐を誓った彼は、刑務所の更生プログラムの講師となり、服役中の個性的なメンバーに、シェイクスピア劇を指導することに。

—十二年後、ついに好機が到来する。大臣にまで出世したトニーら一行が、視察に来るといふのだ。披露する演目はもちろん『テンペスト』。フェリックスの復讐劇の行方は!?



シリーズ第一弾  
2020年  
9月4日(金)  
発売!

“鴻巣訳”、はじける!  
鴻巣友季子(こうのす・ゆきこ)

翻訳家・文芸評論家。1963年東京生まれ。訳書『恥辱』『イエスの幼子時代』『イエスの学校時代』J・M・クッツェー、『昏き目の暗殺者』『ベネロピアド』M・アトウッド、『嵐が丘』E・ブロンテ、『風と共に去りぬ』M・ミッチェル、『灯台へ』V・ウルフなど多数。編書に『ポケットマスターピース09 E・A・ポー』(共編、集英社文庫ヘリテージシリーズ)など。『全身翻訳家』『翻訳ってなんだろう?』『謎とき』『風と共に去りぬ』ほか、翻訳に関する著作も多数。時代を映し、読者の心をつかむ豊富な言語力は“鴻巣訳”と呼ばれている。

## 『テンペスト』

1611年初演。シェイクスピア単独としては最後の戯曲とされる。

【あらすじ】魔術の研究にあけくれていたミラノ大公プロスペローは、ある日突然、弟アントーニオの裏切りによりその座を奪われ、幼い娘ミランダと共に小舟で流され、孤島にたどりつく。今は亡き魔女シコラスの子キャリバン、大気の精エアリエルを手なづけ、島の岩牢で暮らして12年、ついに復讐のチャンスがやってきた。アントーニオとナポリ王らが乗った船が、島の近くを通りかかると。魔法の力で嵐(テンペスト)を起こし、船を沈没させ、彼らを島に上陸させたプロスペロー。復讐劇の行方は!?

現代文学の頂点に君臨し続ける魔女!?  
マーガレット・アトウッド  
Margaret Atwood

カナダを代表する作家・詩人。その著作は小説、詩集、評論、児童書、ノンフィクションなど多岐にわたって60点以上にのぼり、世界35か国以上で翻訳されている。1939年カナダのオタワ生まれ。トロント大学、ハーバード大学大学院で英文学を学んだ後、カナダ各地の大学で教鞭を執る。1966年に詩集『The Circle Game』でデビューし、カナダ総督文学賞を受賞。1985年に発表した『侍女の物語』は世界的ベストセラーとなり、アーサー・C・クラーク賞と二度目のカナダ総督文学賞を受賞。1996年に『またの名をグレイス』でギラー賞、2000年には『昏き目の暗殺者』でブッカー賞、ハメット賞を受賞。2016年に詩人としてストルガ詩のタベ金冠賞を受賞。そして2019年、『The Testaments』で2度目のブッカー賞を受賞した。トロント在住。

Interview

# マーガレット・アトウッド

聞き手・翻訳／鴻巣友季子

## シェイクスピアの物語は、 無限に解釈が可能なのです

『獄中シェイクスピア劇団』の著者であり、  
80歳を迎えた今も現代文学の最高峰に君臨し続ける  
マーガレット・アトウッドさんとの  
Zoomインタビューが実現した。  
聞き手は、この作品の翻訳者、鴻巣友季子さん。  
コロナ禍のため、カナダのご自宅で  
過ごしているというアトウッドさんは  
時折見せる笑顔が猛烈チャーミング。  
穏やかな口調に熱を秘め、  
1時間以上にわたり  
語ってくれた。

構成／編集部  
Photo／©Liam Sharp

### 「テンペスト」はシェイクスピア自身

鴻巣(以下K) まず、40作もあるシェイクスピアの劇作から、なぜ「テンペスト」を選ばれたのかを聞かせてください。

アトウッド(以下A) 幸いなことに、このシリーズの立ち上げのとき、最初に声をかけていただきました。ですから、丸ごとシェイクスピアが残っていたわけです。わたしは「テンペスト」をやりたい、これが出来ないならやりたくないといいました(笑)。この作品なら書く幅が非常に広がるだろう、「テンペスト」の何から

何まで小説版に入れよう、ただし現代的な形で、と即座に思いました。

選んだ理由は、まずこれが「老人の劇」だからです。「ロミオとジュリエット」は十代の人たちを描いた劇ですよね。「テンペスト」はキャリアの最晩年に差しかかった人の話です。しかしそれだけでなく、シェイクスピア自身のキャリアに最も肉薄した内容だと思っんです。彼は劇団のプロデューサーであり、演出家であり、脚本家だった。「テンペスト」のプロセスペローもこの劇において、プロデューサーであり、演出家であり、脚本家の立場にある。シェ

イクスピアがシェイクスピアとして登場する劇、みたいなものかしら。その点にたいへん惹かれました。

「テンペスト」は時とともに上演の仕方が移り変わってきた劇で、そこもむかしから興味があったところです。十八世紀にはオペラとして演じられ、十九世紀にはロマンス劇として上演されました。二十世紀になると、また多様な演じ方がたくさん出てきます。

それから、これはシェイクスピア劇の中では、最もミュージカルに近いものです。歌と踊りのシーンがたくさんある。そしてこの歌と踊りがプロットの一環となっているわけです。あちこちに鑲められたミュージカルの要素で観客を引きこむ。ほかの作品に比べて、見えない何者かの声がたくさん入ってくる。ここも面白いところです。

K わたしは本作で「テンペスト」をミュージカルやヒップホップのスタイルでリミックスして歌っている場面が大好きです。あんなにクールでソウルフルな歌やチャントをどうやって創られたのでしょうか？

A いつも作品を書くときと同じです。人物ひとりひとりに個性がありますが、わたしの小説版では、役者たちが劇づくりに参加し、思い思いに独自のアレンジを加えることを許されています。アントーニオはラップで歌うというのがいちばん自然というが、それらしい

というか、彼ならそうするんじゃないかと感じたんです。どんな韻律にせよ、英語で歌を書くというのはわりと慣れているんですよ。ずつとやってきたことですから。ラップの命という、リズムに尽きますね。ぴつたりのリズムを作ること。リズムとそのスタンダード・フォームをしっかりと掴むことが肝心です。

## 復讐心は、一種の牢獄

**K** 女性社会を描いた作品が多いのですが、今回は男性ばかりの刑務所が舞台ですね？

**A** まあ、作品としては全員が男ではないですね。ミランダもいますし。刑務所を選んだ理由は、それこそが「テンペスト」に描かれているものだからです。わたしはこの小説に着手するまでに原作を五回は読み、映画も舞台も観られるものはかたづけしから全部観ました。それで気づきましたが、「テンペスト」は、誰もかれもが、それぞれの形で「牢」に閉じこめられる話なんです。彼らはみんな一度は「投獄」されるし、あの島自体が牢獄なんですね。

ですから、わたしは「テンペスト」のプロスペローの最後の長科白から手をつけました。「わたしを自由にしてください、(set me free)」という三語で芝居は締めくくられます。観客は、彼は何かから自由になる必要があるのか？と考えるでしょう。結局、プロスペローはこの

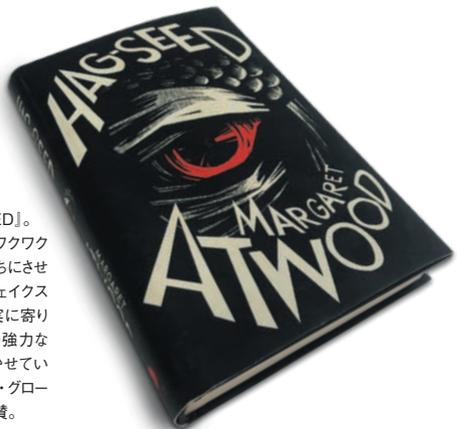
ひとすじでした。統治の務めを投げだし、魔術の研究に勤しんでいた。そうやって自分と娘を危険に晒してしまった。プロスペローがしつかりしていたれば、あんなことにはならなかった。身から出た錆ということです。

**K** あなたにとって、牢獄または閉じこめられるとは、どういうことですか？「昏き目の暗殺者」にこう書かれていますね。「幸福とは、いかなければ、ガラスで囲われた庭。入口も、出口もない。天上の楽園には、物語は存在しない。なぜなら、そこには旅というものが無いからだ。物語を先へと駆り立てるのは、悔いと、嘆きと、渴望。その曲がりくねった道を前へ前へと」。

**A** 「物語づくり」の真理でしょう。何か起きなくては物語にならない。天国のようすを想像するのって、むずかしいんですか？なんだか、とても退屈そう。Go to Heaven for the climate, Hell for the company. と言うでしょう(マーク・トウェインの言葉。陽気が良いのは天国だが、面白い仲間がいるのは地獄といった意味。地獄のほうが面白い人たちがいる。それは彼ら／彼女らが物語をもっているからですよ。物語を誕生させるには、そこに訪れる危機が必要です。なん

劇そのものから解放される必要があるのだとわかる。この芝居自体が「牢」だからです。そのラストから遡っていくと、ほかの牢獄がたくさん見つかるはずですよ。

この劇自体が「閉じこめられること」と「解放されること」を巡るものです。この作品の登



原本『HAG-SEED』。  
「この本が読者をワクワクさせ、愉快な気持ちにさせるのは、作者がシェイクスピアの物語に忠実に寄り添いつつ、独自の強力な魔力を随所に効かせているからだ」(ボストン・グローブ紙) など各紙絶賛。

らかの危機に陥る人物を描かずに物語を成立させることはできません。なにかを失い、惑う人を……火星人が着陸したとか、ゾンビ、吸血鬼、離婚、新型コロナウイルス感染症……、危機があり、幸せな世界が壊れる。すると、活力がわいてくる。この問題をどう解決してやるう？ もつとも、穏やかな気持ちではいられません。

## 「歴史」をたどれば未来が見える

**K** 本作の複雑で重層的な語りスタイルについてお伺いします。一つ目に「テンペスト」と小説のストーリーが見事にパラレルな関係になっています。二つ目に、劇中劇の形をとっていて、小説が「テンペスト」の獄中版を内包しています。三つ目に、獄中劇による「テンペスト」公演の「メイキングもの」にもなっています。どのようにこの劇が作られていくかが細かく語られる。四つ目に、ここがとてもユニークだと思いますが、本作は「テンペスト」を読み解き、分析する研究書にもなっています。劇の発表会の後、それぞれの役者が自分の考える「テンペスト」その後」のレポートを発表しますね。受刑者たちの精神的な成長を感

場人物たちみんなとつきあってみると、わかりますね。拘禁と解放、そして復讐と赦しを巡る物語です。そして復讐心というのは、一種の牢獄なのですよ。誰かに復讐心を抱くのは、地下牢の檻に入るということと同義です。そこから抜け出す唯一の道は「赦し」にあります。誰かを赦したとき——プロスペローもそうしますが——復讐心を抱いていた相手に、あなたは人生を支配されなくなるのです。

**K** いろいろな対抗概念が出てきます。裏切りと忠誠、復讐と悔悟、糾弾と赦し、拘束と解放、支配と服従……。どのキャラクターも一面だけ持っているわけではない。人間の二面性や精神的な曖昧さについてどう思いますか？

**A** そういうところが、シェイクスピア劇の優れたところですよ。だから登場人物たちがみんな興味深い。悪人は悪人、善人は善人というような一元的なメロドラマには決して仕立てません。悪人にも人間味があったり、善人のヒーローもよく見ると実は悪いところがあるほうが、ずつと面白いですよ。それに、プロスペローは聖人にはほど遠い人物です。

孤島に流されたのだった、そもそも彼が悪人ですよ(笑)。大公の務めを放棄して、国を治めるという仕事を顧みなかった。無能な大公になりそうな人は、君主として自分のやるべき仕事をゆめゆめ忘れないように。プロスペローはそういう仕事は眼中になく、魔法

じる場面です。この重層的な造りをどのように構想しましたか？

**A** 刑務所でシェイクスピア劇を教えている人たちの本をたくさん読みました。教えるだけでなく実践的な上演をおこなったりしている人たちです。こういうプログラムでは、初回のクラスでなにをするのか？ 演劇に参加したい人たちはもちろんその台本を読みますね。つぎに、登場人物たちの人となり掘り下げのためにディスカッションをおこなう。どんな劇でもそうです。キャストはその劇のなかでなにが起きているのか理解する必要があります。自分がどんなキャラクターを演じているのか、その人物にはどんな解釈が可能なのか。フェリックスは教師でもあるので、劇団のメンバーにいくつか課題を出します。その課題の一つが「劇の終わった後、自分の演じたキャラクターがどうなるか考える」というものなんです。

「テンペスト」には答えの出ない問いがたくさんあります。たとえば、キャリバンはあの後、どうなったのでしょうか？ これまでにいろいろな解釈の舞台があつて、島に残ったキャリバンが幸せそうに暮らしている、というものもあります。とうとう自分の島をとりもどしたわけですよ。でも、これは本当に幸せなことでしょうか？ 島にはほかに誰もおらず、彼は独りぼっちになるのです。どうしてハッ

## 拘禁と解放、そして復讐と赦しを巡る物語

# 人間の本质に対する無数の解釈と理解

ピーエンドなのでしょう？もう一つの解釈は、彼がプロスペローたちと一緒にミラノ行きの船に乗るといいますが、ミラノに行ったキャリアバンはどうなるでしょう？

要するに、みんなよくわからないわけです。誰が演出をしても、その疑問は残ります。シェイクスピアにもわからなかったんじゃないかという気がするときがあります。ですから、わたしたちが決めなければなりません。シェイクスピアの劇には、こういう「空白」がたくさんあるんです。

**K** あなたはこれまで多くの社会問題を、それが表面化するはるか前に「予言」してきました。最近では、コロナ禍が引き起こした「プーリムバー現象」とか。これとよく似た運動を「老いぼれを燃やせ」という短編（2016年刊）に書いていますよね。また、摂食障害、解離性人格障害、虐待による心的外傷（トラウマ）、「サードマン現象」など、多くの精神障害や症候群も「予見」してきました。それから学校におけるいじめ、ディストピア的な政権まで。『獄中』では、ソーシャルディスタンシング・ヴァーチャル演劇と呼ぶべきものを早くも取り入れていました。あなたは「わたしは歴史上、あるいは現在に起きたことのないことは、一つも書いたことがない」と言いました。すべて実在すること、現実には起きていることだと。社会問題に対

い。これはもつと大きな問題ですね。

## シェイクスピア劇は「美しく」はない

**K** こんにちはの読者にとって、シェイクスピアの最大の魅力とはなんだと思いますか？なぜ四百年以上、読み継がれていると思いませんか？

**A** まず、「読者」というのはやめましょう（笑）……シェイクスピアが魅了するのは「聴衆」ですね。シェイクスピアの戯曲は、本で読むと「ひどい」と思う人もいるでしょう。「こんな劇、誰が観るんだ？」と。でも、舞台にのつてみると、なるほどと唸る。舞台技術やいろいろなものが合わさって、とてもドラマティックに見えます。たとえば、「タイタス・アンドロニカス」。本で読んだときには、「うええ」と思うでしょう。でも、舞台を観劇すると、すっかり引き込まれてしまう。

シェイクスピアは自分の作品を、座って読むものとして書いていません。自身が役者で、プロデューサーで、演出家でもあり、劇の作者でもある。シェイクスピアは「ぼくはシェイクスピアになるぞ」と思ってたわけではありませんが、そんなことは考えていなかった。客を劇場に呼び込むのに、「つぎはどんな劇を上演しようか？」と考えるのに忙しかった。今、英国で史劇のベスト作品というと、かなら



獄中劇団のメンバーが  
実にユニーク。  
イラスト/グレース・リー

して、どうしたらそのような鋭敏で深い洞察力がもてるのでしょうか？

**A** 「予言」ではないですよ。わたしに予知能力はありません。もしできたら、株をやって大儲けしています。そうでしょ？（笑）でも、本を読めば、人類の歴史のパターンは見えてくるものです。人間がおこなってきたことは、繰り返される。だから、歴史を眺めてみれば、人間に可能なこと、やりそうなことは大抵わかるんです。良いことも、悪いことも。天候がつねにどのように歴史に作用してきたかもわかる。不作の年は、人びとは飢えて物価が上がりますから、社会不安が起きるだろうと予想がつく。そうならないはずがない。

演劇の公演に関しては、あの状況で何ができるのか、そしてそれをどう実現するか考えたのです。実際、劇場は今、新しい公演方法を試行錯誤していますが、それはその必要があるからです。必要は発明の母で、いつもそこに危機があると、刺激されて発明が生まれる。それは人々が、それならこうしたらどう？と他の道を考えるからです。人間の良いところは、発明家であるということです。人間は創造的で、発明家で、問題を解決する。ただ、その発明がどんな影響を及ぼすか予測できません。

シェイクスピア劇は「美しく」はありません。人は彼の美しいモノログばかり諦（あきら）みますが、それは特定のキャラクターに限られたセリフなんです。シェイクスピアはスタイルの豊かなメランジェ（混交）で、だからこそ、人々は今でも彼の芝居に足を運ぶし、大いに魅了されるのだと思います。それぞれのキャラクターは多元的で、その物語は無限に解釈が可能です。この人の解釈、あの人の解釈がある。だから、何度も観て展開がわかっていても、このキャストなら、この演出家ならと言つてまた劇場に向いていくでしょう。ときには呆れた演出もあるでしょうし、うべないがたい舞台もあるでしょう。以前は理解できなかったけれど、その舞台を観たら初めて理解できた、ということもあるはずですよ。

わたしも二年ほど前、「リア王」の舞台を観たとき、それまで見えていなかったものが見えて膝を打つたことがあります。リア王の演じ方よりも、ほかのキャラクターの演じ方に発見があった。この劇作の意味をより高めるような演出と演技でした。シェイクスピアには、人間の本质に対する無数の解釈と理解がある、だから、今も魅力が褪せないのです。

# 自分だけの建物を建てる

語りなおしシェイクスピア刊行に寄せて

寄稿

北村紗衣

シェイクスピア作品の「語りなおし」というのは、全く珍しくはない。400年間にわたって上演され続けていて面白さについては保証つきだし、著作権が切れているので翻案し放題。ある芸術作品が他の芸術家にヒントを与え、新しい作品ができるというプロセスは芸術の歴史が始まって以来繰り返されていることだが、シェイクスピアはとくに人気があるインスパイア元だ。黒澤明からトニ・モリソンまで、さまざまなクリエーターがシェイクスピアを語りなおしてきている。

この手の「語りなおし」でとくにシェイクスピア劇が人気である理由のひとつとして、とても多様な解釈が可能だということがある。もともと戯曲というのは地の文がないこともあり、さまざまな登場人物を出しているいろいろな視点を提供することが比較的やりやすい上、演出によつてがらりと変わる。戯曲と

いうのは基本的に設計図で、上演は建った建物だ。演出家によつてできあがる建物が違い、そこに面白みがある。

さらにシェイクスピアというのは、作者の気配を消すのが得意な劇作家だ。紡ぎ出す言葉の美しさに関しては「あ、シェイクスピアだ」とわかる作家性があるのだが、一方でいつたい劇作家自身がどの登場人物に一番自分の意見に近いことを言わせているのか、どの登場人物を一番気に入っているのかといったことはわからないことが多く、あえて曖昧なままにしてあると思われるところがある。シェイクスピア劇の主人公たちはかなり観客に胸の内を明かしてくれるにもかかわらず、こちらが一番知りたいことについては情報を小出しにするだけであまりはつきり教えてくれない。ハムレットやクレオパトラやシャイロックはおしやべりで話もうまいが、芝居の鍵となるようなと

ころについてはほのめかし程度しか話さないで、観客のほうはいつたかなんであんな行動をとるのか、何が目的なのか、といったことをえんえんと議論して楽しむことができる。ミスティアスで多様な解釈を許すところが大きな魅力だ。

ホガース・プレスが刊行し、今回集英社から翻訳される語りなおしシェイクスピアシリーズは、現代文学を牽引する小説家たちに、シェイクスピアの設計図をもとに自分の好きな建物を建ててもらおうという企画だ。演劇から地の文が駆使できる小説へということまでメディアの特性が変わる上、強い作家性を持つ小説家をそろえている。作品のチョイスについても、「この作家の作風ならこの原作だろうな」と納得するところが多い。日本語版で最初の刊行となるマーガレット・アトウッドが選んだ建物は、刑務所と劇場だ。『獄中シェイクスピア劇団』では、

有名な演劇祭の芸術監督をおろされ、刑務所でシェイクスピアを教えている主人公フェリック스가、復讐劇『テンベスト』の上演を通してかつて自分を追い出した人々に復讐を企む。シェイクスピアも好んで利用した、劇中劇と本筋を呼応させる手法を縦横無尽に駆使している。

『獄中シェイクスピア劇団』の面白さは、少々突拍子もない展開を相成りサーチによつてリアルなものにしているという点だ。刑務所での読書会やシェイクスピア上演というのは近年非常に注目されており、ノン

フィクションや研究書もたくさん出ているのだが、謝辞で著者自身がことうした活動を参考にしたりと述べている。終盤でフェリック스가刑務所の生徒たちと芝居を作っていく様子

は、よくできたノンフィクションのように生き生きしている。劇中劇は最近流行りのイマージヴ(没入型)演劇とかインタラクティブ演劇を思わせる手法を使つており、最新の演劇トレンドが組み込まれている。アトウッドの他の作品に比べると、とくに小難しいところもなくすらすら読めてしまうが、綿密な調査に基づいているのだ。

さらに、この作品にはカナダ文学らしさもある。フェリック스가クビになったマカシェウエグ・フェスティバルは、カナダの読者ならおそらくすぐ、実在するシェイクスピア演劇祭であるストラトフォード・フェスティバルだとわかるように書かれている。北米最大規模のシェイクスピア祭でカナダでは有名であり、この演劇祭をヒントにした『スリングズ・アンド・アロウズ』というドラマが作られてヒットしているくらいだ。残念ながらこのドラマは日本に輸

入されていないが、見たことがある人なら「あ、これは『スリングズ・アンド・アロウズ』だな」とわかるネタが本作には仕込まれている。アトウッドは国際的に受け入れられやすい作風の作家だが、地元の読者への目配せも忘れていない。

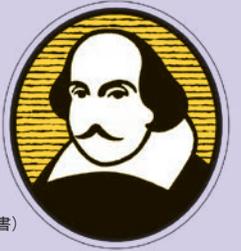
シェイクスピアの『テンベスト』から、アトウッドはカナダ風の刑務所と劇場を建てた。シェイクスピアの台本からは、どんな建物を建ててもいい。読者の皆さんには、是非シェイクスピアをヒントに自分だけの建物を建ててほしいと思う。

きたむら・さえ●1983年生まれ。専門はシェイクスピア、フェミニスト批評、舞台芸術史。現在、武蔵大学人文学部英語英米文化学科准教授。著書に『シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち——近世の観劇と読書』(白水社)、『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』(書肆侃侃房)など。  
<https://saebou.hatenablog.com/>



1874年に建てられた  
シェイクスピア像。  
(レスター・スクウェア/ロンドン)

# 今さらですが—— シェイクスピアって どんなお方？



シェイクスピアの名前を聞いたことがないという人は少ないはず。  
でも、シェイクスピアって、いったどんな人生を送ったお方？

参考文献：河合祥一郎『シェイクスピアの正体』（新潮文庫）、『シェイクスピア 人生劇場の達人』（中公新書）

シェイクスピアは、一五六四年、ロンドンの北西にある小さな町、ストラットフォード・アポン・エイヴォンで生まれました。たぶん、地元の学校に行ったのだと推測されています。しかし、「そんなたいした学もない田舎ものに、あのような傑作が書けたらどうか？」と疑問を持つ人は、フロイト、マーク・トウエインなどの超有名知識人もふくめ、あとをたちません。

なにしろシェイクスピアが用いた語彙はおよそ三万語と言われることもあり、流麗かつ豊富。今の英語の基礎をつくっ

たといわれる美しい韻律の詩や科白。歴史にも、貴族の生活にも精通しています。よほど頭脳明晰で高等教育を受けた貴族でなければ無理でしょう!? だいたい、蔵書の一冊、手紙の一通も残っていないし……というわけで、別人説は大人気。当時のイギリス屈指の知識人フランシス・ベーコン？ 詩作と武勇の誉れ高かった第七代オックスフォード伯爵？ 女性だったという説、はてはグループ執筆説まで。



ストラットフォード・アポン・エイヴォンにあるシェイクスピアの生家（復元）

## 十八歳で八歳年上の アン・ハサウェイと結婚

シェイクスピアは、十八歳で、八歳年上のアン・ハサウェイと結婚しました。そして彼女は結婚六ヵ月後に出産。当時、父親のいない子どもを産むことはご法度なので、大急ぎで結婚！ となったに違いありません。ハサウェイ家は地元古い農家で、シェイクスピアの家から歩いて行ける距離。恋におちたシェイクスピアが通いつめ、ふたりは愛を誓いあった……と想像したいところですが、

それにしても、十八歳で結婚というのには当時しても早く、花嫁が年上というのも異例でした。さらに三年後の一五八五年には、男女の双子も誕生。シェイクスピアは二十一歳にして三児の父親になっていたのです。

## 空白の六年間

ところが一五八七年九月から、シェイクスピアの記録はぶつりと途絶えます。次に記録があるのは、一五九三年、ロンドンでサウサンプトン伯爵へ捧げる詩集の著者として。この間、シェイクスピアはいったい何をしていたのか？

様々な憶測がされていますが、彼はストラットフォードで公演していた劇団に加わり、妻や子供、両親、きょうだいを残して、ロンドンに行ったのでは？ という説が有力です。当時、一代で出世の道を駆け上り町の有力者だった父親は、カトリックだったことが原因で仕事もできず没落。収入の道を絶たれた一家を支えるため、二十三歳のシェイクスピアは、ロンドンで一旗あげようと一念発起して旅立ったのか、もしくは、何もかも嫌になって発作的に出奔したのか？

ロンドンで今をときめく劇作家となり、劇団の株主としてお金持ちにもなったシェイクスピア。作品をみると、スケールが大きくロマンチックで感情的でおしゃべりで……と無責任な想像がふくらんでしまう人物像ですが、意外としっかりしまり屋さんでした。紳士階級になるために、紋章院に大枚をはたいて紋章を認可してもらい、故郷の家族に家を購入したあとも、不動産に投資、税金を滞納した訴訟の記録も残されています。

一六一三年にグロウプ座が火事で炎上したのち、本格的に引退して故郷へ。その三年後、一六一六年に亡くなりました。享年五十二歳。残された記録が少ないこともあって、彼の戯曲さながら、いくらかでも解釈と想像が広がる人生です。

## 意外としまり屋さんでした

## シェイクスピアの正体は 実はフランシス・ベーコン!?



# 続々刊行!

鋭意翻訳中。どうぞお楽しみに!

◀ 原本、左から「HAG-SEED」「DUNBAR」「VINEGAR GIRL」

◎ 集英社文芸の公式情報はこちら! →

<http://renzaburo.jp>



\*発売日・内容は変更になる場合があります。

## 2021年春刊行予定

語りなおしシェイクスピア2  
リア王

メディア王ダンバー  
(仮)

エドワード・セント・オービン  
小川高義 訳

実の父親から性的虐待を受け続けた幼年時代、その後の薬物依存、という自らの体験に基づいてイギリス上流階級の腐敗を描いた「パトリック・メルローズ」シリーズの作者が、権力に溺れた父親「リア王」を語りなおす。



Photo / ©Timothy Allen

## 2021年秋刊行予定

語りなおしシェイクスピア3  
じゃじゃ馬ならし

ヴィネガー・ガール  
(仮)

アン・タイラー  
鈴木潤 訳

原作は、「じゃじゃ馬」な妻をどうにかして従順にさせるという、今の時代、少々乱暴な気がしなくもないお話。それがアン・タイラーの手にかかると、ぎこちなく生きる女と男の、優しくおかしい現代のラブ・ストーリーに。



Photo / ©Michael Lionstar